

# 令和4年度 地区会報告

## I 北海道地区・東北地区

### 【北海道地区会】

#### 日時

令和4年9月2日(金)

10:40～11:40

#### 場所:

ZOOMを活用した  
オンライン開催

#### 参加者

札幌校: 牧野香里  
旭川校: 岩永啓司、南部正  
人、八重樫良二  
釧路校: 佐々木宰  
函館校: 橋本忠和  
岩見沢校: 岩崎仁美、大西  
洋、佐々木けいし、  
土井伸也、山内祈  
信(敬称略)

#### ■協議事項

##### 1. 令和6年度以降の地区全国委員・地区全国理事について

下の表の通り、令和6～7年度の地区全国委員・地区全国理事について、大石先生(旭川校)、が担当することが提案され了承された。

年度	地区全国委員・地区全国理事	
R2	竹田(岩見沢)	福江(釧路)
R3	佐々木(岩見沢)	福江(釧路)
R4	佐々木(岩見沢)	李(札幌)
R5	伊藤(岩見沢)	李(札幌)
R6	伊藤(岩見沢)	大石(旭川)
R7		大石(旭川)

#### ■報告事項

##### 1. 新任教員のあいさつ1 ・令和4年度着任

- ・岩見沢校 美術教育 岩崎仁美先生
- ・岩見沢校 書 土井伸也先生

##### 2. 新任教員のあいさつ2 ・令和2年度着任(R2年時、書面でのみ挨拶済み)

- ・札幌校 絵画 牧野香里先生
- ・岩見沢校 彫塑 山内祈信先生

##### 3. 退職者のあいさつ

- ・旭川校 デザイン 八重樫良二先生  
(R3年度で退職、現在特任教授)

##### 4. 出席者全員から近況報告等

##### 5. 各校の進路・就職等状況、課題、教員公募、展覧会情報などに関して情報交換

##### 6. 理事会からの連絡事項伝達

- ・登録メールアドレス確認のお願い
- ・第61回大学美術教育学会宮崎大会参加の呼びかけ

#### ■その他

- ・令和5年度の学会開催予定について

作成者: 北海道教育大学岩見沢校  
佐々木けいし

### 【東北地区会】

#### 日時

令和4年7月29日(金)

16:00～19:20

#### 場所

オンライン会議  
(Cisco Webex Meetings,  
担当校・岩手大学)

#### 参加者

全15名  
弘前大学: 出佳奈子  
佐藤絵里子  
塚本悦雄  
秋田大学: 長瀬達也  
岩手大学: 長内努  
金沢文緒  
溝口昭彦  
宮城教育大学: 虎尾裕  
山形大学: 具志堅裕介  
小林俊介  
土井敬真  
降旗孝  
福島大学: 新井浩

#### ■協議事項

##### 1. 東北地区会規程に関する今年度の取り扱い

「申し合わせ事項『年会費は、教員1名当たり2,000円とし、定例総会の当日当番大学へ納入する。』」に関して、今年度の新型コロナウイルス感染状況を勘案し集金については見合わせるものとし、全国理事会の会議形式が対面になった場合は申し合わせ事項に則り再度協議することとした。

#### ■報告事項(各大学の現状、新規入退会者、情報共有など)

##### 1. 美術分野の現況と、美術免許(中・高)維持の方法、及び共同教職課程の実態と展望について

- (1) 小学校、中学校免許を取り易くするための方策が検討され、義務教育特例を念頭にどちらも取れる制度が検討されている。
- (2) 実技系教科免許の廃止を機に、免許を取得できる大学を中心に、出講体制の集約などを見据え、南東北エリアの大学間で調整が進む可能性も予想される。

##### 2. 美術系教員の配置について

各大学から資料に基づき、教員の担当領域、人数等の現状報告。さらに後任補充等に関する報告があった。

##### 3. 入試状況、入試体制について

各大学から資料に基づき、試験実施の概要、募集人員、合格者等についての報告があった。

##### 4. 学生の就職状況について

各大学から資料に基づき、就職状況についての報告があった。

##### 5. 教員免許状講習に代わる取り組みについて

各大学から報告があった。

##### 6. 小学校教科担任制について

- (1) 各大学からの報告と、各県の実態と今後の展望について意見交換を行った。
- (2) 卒業要件として、副免許も課せている現状では、教科担任制はない県もあるとのこと。

##### 7. 2023年度美術科教育学会弘前大会について、弘前大学から報告があった。

##### 8. 小学校免許科目における鑑賞学習や美術館学習の現状について。及び、地域における

加藤 奈保子  
渡邊 晃一

### 大学主体の美術関連イベントの実施状況について

- (1) 美術館学習について、秋田大学をはじめ該当する事例紹介が各大学から報告があった。
- (2) イベント実施状況について、岩手大学をはじめ該当する各大学から、事例紹介の報告があった。

### 9. 新規入退会について、報告があった。

2022年度～23年度東北地区全国委員として、新たに、福島大学渡邊 晃一先生にお願いした旨、報告があった。

#### ■その他

1. 来年度東北二部会開催について、宮城教育大学が担当する報告があった。

作成者：宮城教育大学 虎尾 裕

## II 関東地区

### 【関東地区会】

#### 日時

令和4年7月17日(日)

13:00～15:40

#### 場所

茨城大学 Teams 会議  
(Teams ウェビナー使用、  
オンライン)

#### 出席者 全 38 名

東京学芸大学：鉄矢悦朗、  
古瀬政弘、朝野浩行、  
正木賢一、清野泰行、  
相田隆司、笠原広一、  
花澤洋太、西村德行、  
速水敬一郎

横浜国立大学：原口健一、  
河内啓成

千葉大学：小橋暁子、神野  
真吾、佐藤真帆

茨城大学：片口直樹、島田  
裕之、向野康江、甲斐  
教行、齋藤芳徳、島剛、  
小口あや

宇都宮大学：株田昌彦、梶  
原良成、松島さくら子

群馬大学：喜多村徹雄、林  
耕史、齋江貴志、郡司  
明子、市川寛也

山梨大学：栗田真司

埼玉大学：高須賀昌志、小  
澤基弘、石上城行、内  
田裕子

筑波大学：水野裕史、直江  
俊雄、仏山輝美

#### 〔議事〕

- ・地区会長あいさつ(茨城大学、向野康江)
- ・日程説明(茨城大学、片口直樹)
- ・議長団選出 議長(茨城大学、向野康江)、  
副議長(宇都宮大学、株田昌彦)

#### 1. 前年度議事録の確認(茨城大学、向野康江)

#### 2. 地区会長報告(千葉大学、神野真吾)

前年度の全国総会について報告。

#### 3. 令和3年度関東地区会収支決算報告(千葉大学、佐藤真帆)

#### 4. 令和3年度関東地区会会計監査報告(横浜国立大学)、承認

#### 5. 令和4・5年度全国美術部門地区全国委員選出

「宇都宮大学、本田悟郎」に決定  
(R3年・R4年度「茨城大学、向野康江」)

#### 6. 令和4・5年度大学美術教育学会地区全国理事選出

「宇都宮大学、本田悟郎」に決定  
(R3年・R4年度「茨城大学、向野康江」)

#### 7. 令和5年度地区総会・協議会の開催について

当番大学「宇都宮大学」を確認。開催方法  
オンラインの予定((宇都宮大学、株田昌彦)

#### 8. 令和4年度会計大学、監査大学について

会計大学「茨城大学」、監査大学「千葉大学」  
が確認された。

集金方法、指定口座振り込みの確認(茨城  
大学、片口直樹)

#### ■承合事項

各項目について大学間で承合し情報共有し  
た。項目は次の通り。

学生募集の記述内容と人数の増減/「情報」  
の取り扱い、ICTの活用、オンライン授業/  
教職大学院の状況と実習先/各県教員採用試  
験/各大学教員就職率/就職活動の現況/大  
学教員評価/専任教員充足率/留学生対応

#### ■協議事項

#### 1. 教員志望増可のための手立てについて

宇都宮大学より、美術分野(専攻)の教員  
就職率が学部内他の分野(専攻)と比べて低  
いことが示され、美術分野(専攻)の学生が  
教員を志望するための手立てについて協議さ  
れた。これを受け群馬大学の「美術長期研修員」  
という制度など、卒業生による研修実施など  
が参考として報告された。

#### 2. R4年度教大協関東地区会への補助金の申請について

茨城大学より、R4年度教大協関東地区会  
への補助金申請の要無と用途について審議提  
案があり、前年度『美術教育の理論と実践第  
2号』刊行と同様に補助金申請を踏襲するこ  
とや新たにパンフレット作成などが議論され  
たが、同日の地区会で結論は出ず、後日8/  
12までのメール審議となった。その結果、  
今年度の申請は行なわないこととなった。

#### ■報告事項(各大学の現状、新規入退会者、 情報共有など)

1. 入会者「茨城大学、齋藤芳徳」
2. 退会者「山梨大学、村松俊夫」「筑波大学、  
宮坂慎二」

作成者：宇都宮大学 本田悟郎

## 【北陸地区会】

## 日時

令和4年6月30日(木)

14:30～16:30

## 場所

Zoomでの遠隔会議

## 出席者 全20名(敬称略)

金沢大学: 大村雅章

江藤望

新潟大学: 三村友子

橋本学

佐藤哲夫

丹治義彦

永吉秀司

田中咲子

柳沼宏寿

富山大学: 上山輝

鼓みどり

隅敦

福井大学: 湊七雄

坂本太郎

小笠原文

上越教育大学: 伊藤将和

洞谷亜里佐

松尾大介

安部泰

信州大学: 大島賢一

## ■報告事項

## 1. 令和4年度事業計画と会計予算

北陸地区運営費には美術部門に35,000円の予算が充てられているが、コロナ禍で事務経費がかからないことを想定して予算を3,000円とした。35,000円については昨年度当番の信州大から当番校裁量で良いだろうとの判断が示された。今後、理事・委員が学会の会議へ出向く旅費が発生する場合等に申請して使用したい。

## 2. 当番校について

北陸地区会評議委員会の要項に、美術部門の令和5年度の当番校が金沢大学と記されていたことを踏まえながら来年度について協議した。数年前、福井大学が全国大会を受け入れた年に当番校をスキップしていた経緯があり、それを踏襲して令和5年度は福井大学が当番校となること、そして令和6年度は金沢大学が北陸地区の大会開催校と予定されているために当番校をスキップすることを確認した。(※ローテーション: 福井, 金沢, 富山, 上越, 信州, 新潟)

## 3. 新理事・新委員の選出

令和4・5年を新潟大学の柳沼が担当することです承を得た。

## 4. 2024年の全国大会について

2024年(令和6年度)の北陸地区での全国大会について、ローテーションで金沢大学が引き受けることです承を得た。

## ■協議事項

## 1. 各大学の現状・課題について

多くの大学で教員不補充が深刻な問題となっている現状が報告された。そのような中、金沢大と富山大の共同教育課程が始め、共同での実技教育の様子とともに、教員定員が少ない中での効果や免許を出すことができるようになったことなどが成果として挙げられた。また、新潟大学は改修工事を控えているが、文科省の示す基準面積が狭く、現在の三分の一近くに減少する見込みであることや、福井大では10年前からスペースチャージを導入し、チャージ料について学部全体から補助してもらえるようになった経緯が紹介された。

## 2. 美術の免許取得後、その免許がどのように生かされているか。

首都圏では文化財関係で活躍の場がみられることや、福井県は人事異動が小中またがっていて、美術や家庭科の動きが目立つことなどが紹介された。

## 3. ICT活用について

研究費や科研費でタブレットを購入していることや、学生個人のスマートフォンを活用していることなどが報告された。また、アプリケーションの制限に関する問題点や対処法などについて話し合われた。

作成者: 新潟大学 柳沼宏寿

## 【東海地区会】

## 日時

令和4年9月4日(日)

10:00～12:00

## 場所

Zoomによる遠隔会議

## 出席者 全23名

愛知教育大学(5名):

井戸真伸

鷹巣純

中村僚志

松本昭彦

杉林英彦

三重大学(6名):

## ■協議事項

## 1. 令和4年度部門・学会地区委員について

令和3・4年度担当委員の杉林英彦(愛知教育大学)の継続、令和4・5年度担当委員として野村幸弘氏(岐阜大学)の選出、および令和5・6年度担当委員の永江智尚氏(愛知教育大学)の予定を確認した。令和4年度事務代表として幹事校の杉林英彦(愛知教育大学)が担当することとなった。

## 2. 次年度(令和5年度)開催地について

令和5年度東海地区会開催校は、地区内でのローテーション(岐阜大学→静岡大学→愛知教育大学→三重大学)にもとづき、三重大

学で決定した。

## ■報告事項(各大学の現状、新規入退会者、情報共有など)

## 1. 各大学の新型コロナウイルス感染対策と講座等における授業実施の状況について

新型コロナウイルス感染症対策にとまなう、各大学での授業の実施状況などが報告された。各大学における対面式、遠隔式、ハイブリッド式などの授業方法や教育実習への対応に関する報告が行われた。概ね、対面式の授業方法を推奨され、全15回中8回を超えない遠隔授業を認められている状況の報告が多かつ

上山浩  
岡田博明  
奥田真澄  
関俊一  
山口泰弘  
山田康彦

岐阜大学（3名）：

河西栄二  
野村幸弘  
山本政幸

静岡大学（4名）：

伊藤文彦  
占部史人  
高橋智子  
芳賀正之

た。愛知教育大学では、コロナ対策とは関係なく、全回の講義を遠隔実施する「メディア授業」という枠組みが設定され、大人数の講義形式の科目が大学の許可を受け実施されているという報告もあった。

### 2. 志願者数の動向（入試情報）について

各大学の学部・大学院における入学志願者数の動向と入試の変更点などが報告され、志願者数の増減や入試広報、教員採用試験への受験との紐付けなどについて意見交換が行われた。各大学とも受験者数が減少傾向にあり、受験科目や実技試験内容の検討、入試広報の改善などの課題を抱えている状況で、今後の動向を注視していくことが確認された。

### 3. 卒業生・修了生の動向（進路情報）について

各大学の令和3年度卒業・修了生の進路状況について報告された。教職、公務員、一般企業、進学などの進路割合については、ほぼ例年並の傾向であった。教職希望がやや増加しつつある大学もあったが、教職大学院への進学については、まだ僅かである状況が報告された。

### 4. 各大学学部・大学院における改革・改組等の状況について

各大学における組織改革の状況が報告された。学部の教員養成課程の改組・再編にともなう定員の増減（静岡大学の新学部設置など）、さらに新たに始まった教職大学院の取り組み

状況について報告があった。教職大学院においては、美術教育分野を志望する院生数の伸び悩み、美術の専門科目の設置状況などについて意見交換が行われた。

### ■その他

#### 1. 昨年度の卒業制作展の開催状況及び今年度の計画等

昨年度の各大学の卒業制作展は、愛知教育大学：実地開催、静岡大学：実地・Web同時開催、岐阜大学：実地開催、三重大学：実地実施（Web事前予約制）という方法をとったことが報告された。実地開催の大学においても、SNSを通して公開を行っている、または今年度も昨年度同様の開催計画であることの報告が行われた。

#### 2. 全国大会（宮崎）のご案内

芳賀正之氏（静岡大学）より、令和4年度日本教育大学協会全国美術部門協議会並びに第61回大学美術教育学会 宮崎大会（配信開催）のご案内があった。

#### 3. その他

地区会開始時の自己紹介の時に、山田康彦氏（三重大学）から今年度をもって特任教員としての退職により退会される旨の挨拶があった。

作成者： 愛知教育大学 杉林英彦

## IV 近畿地区・四国地区

### 【近畿地区会】

#### 日時

令和4年6月5日（日）  
13:00～15:30

#### 場所

オンライン

#### 出席者：全11名

奈良教育大学：原山健一  
兵庫教育大学：前芝武史

#### ■協議事項

##### 1. 会員数、入退会者の確認と後任補充について

退会者と今後の人事について報告があった。大阪教育大学1名退職、奈良教育大学1名退職、兵庫教育大学1名退職。今年度会員数は奈良教育大学5名、兵庫教育大学6名、神戸大学2名、滋賀大学4名、京都教育大学5名、

和歌山大学2名、大阪教育大学9名。3名減少しており、後任人事も無い場合があることへの対策について、1大学単独で免許状が出せなくなるなどの懸念も含め、各大学の現状を確認しつつ意見交換した。

##### 2. 今年度の全国理事の選出について

2021 - 2022年度：永沼理善先生（和歌山大学）の継続、2022 - 2023年度：谷村さく

大阪教育大学：寺島みどり  
谷村さくら  
京都教育大学：日野陽子  
丹下裕史  
和歌山大学：寺川剛央  
永沼理善  
神戸大学：勅使河原君江  
滋賀大学：新関伸也  
世ノ一善生

ら（大阪教育大学）新規選出が了承された。また、地区理事として2022 - 2023年度：大阪教育大学、以降、奈良教育大学→兵庫教育大学→京都教育大学→滋賀大学の輪番を確認した。

### 3. 今後の学会の在り方について

現在3つある学会の連携について意見交換がなされた。後任人事の滞り、共同教育課程による教員の負担増、免許法改正の危惧や教員定数の減少などの問題に対し、将来的にどのような形で「部門」と「学会」が動いていくべきか、教員間の情報共有や協力を意識し、対策を講じる必要があることを確認した。

### ■報告事項（各大学の現状、新規入退会者、情報共有など）

### 1. 全国大会（山形大会）の報告と宮崎大会について

山形大会における教大協全国美術部門役員会、大学美術教育学会理事会、部門協議会、シンポジウムの内容について報告がなされた。また、本年度、宮崎大会の案内と次年度、四国地区が全国大会担当につき、近畿地区会員はサポート役として予定されていることが報告された。

### 2. 各大学からの報告

共通して、新入生の状況、卒業生の就職先、教職大学院への移行状況、コロナ禍での授業形態や卒業制作展、地域連携について、教員予算配分への危惧などが報告された。

作成者： 大阪教育大学 谷村さくら

## 【四国地区会】

### 日時

令和4年6月26日（日）  
13:00～15:00

### 場所

Zoomによる  
オンライン会議

### 出席者 全4名

高知大学：金子宜正  
鳴門教育大学：山田芳明  
香川大学：吉川暢子  
愛媛大学：福井一真

### ■協議事項■

#### 1. 地区会費について

地区会の徴収ならびに今後の取り扱いについて意見交換を行った。

地区会開催校の福井（愛媛大学）から、近年、COVID-19の影響から会議等が遠隔実施されることが多く、交通費などの旅費を支給する機会が激減したことを受け、地区会の会費についての見直しが提案された。今年度も地区会がオンラインで開催されたことを受け、交通費等が必要ないことから今年度以降は地区会費を徴収しないことが了承された。

また、会費管理の負担軽減などを考え、来年度以降も地区会費を徴収しないことが了承された。

また、香川大学から地区会費の用途についての提案があり、各大学に持ち帰って検討することになった。

#### 2. 大学美術教育学会香川大会について

教室の確保やおおまかな日程について香川大学から進捗状況の報告があった。

対面実施に必要な引き継ぎ資料の収集や、大会HP作成等の業者の選定など、大会開催に向けて準備すべきことを四国地区として共有した。

その際、鳴門教育大学から学会開催の準備委員会を立ち上げ、四国地区の4大学（鳴門教育大学・高知大学・香川大学・愛媛大学）以外の大学美術教育学会会員にも協力を呼び

かけて学会開催に向けて四国全体で取り組んではどうか、という提案があった。その提案について、各大学の了承を得られたため、準備委員会の立ち上げも含めて、今後必要に応じて四国地区における大学間での協力体制を構築していくことを確認した。

#### 3. 四国地区の今後について

令和4年度の四国地区全国理事として、鳴門教育大学：山田芳明（令和4—5年）にお願いすることになり了承された。

現在香川大学で管理されている地区会費については、2023年度の大学美術教育学会香川大会まで、香川大学が継続して管理を行うことを確認した。

また、会費の管理や今後の取り扱いについては、地区会の規約内容も確認したほうがよいという意見もあり、地区会の規約についても必要に応じて修正・変更することを確認した。

### ■報告事項（各大学の現状、新規入退会者、情報共有など）

#### 1. 新規入退会者について

新規入会者2名（鳴門教育大学・香川大学）、退会者1名（愛媛大学）を確認。

### ■その他

特になし。

作成者： 愛媛大学 福井一真

## 【中国地区会】

## 日時

令和4年6月18日（土）  
13:00～15:30

## 場所

Zoom

（主催大学 島根大学）

## 出席者：全14名

島根大学：川路澄人

藤田英樹

小谷充

有田洋子

野村真弘

山口大学：吉田貴富

上原一明

平川和明

広島大学：三根和浪

八木健太郎

池田史志

岡山大学：山本和史

赤木里香子

大橋功

## &lt;地区理事交代挨拶&gt;

- ・2020-2021 山本和史：岡山大学
- ・2021-2022 藤田英樹：島根大学
- ・2022-2023 吉田貴富：山口大学

## &lt;議長選出&gt;

慣例として次年度開催大学（山口大学）から吉田貴富先生が選出された。

## ■報告事項

## 1. 全国委員会・理事会報告

藤田英樹（島根大学）

第1回 2021.9.24 開催（zoom）

第2回 2022.3.31 開催（zoom）

## 2. 2021年度地区会会計報告

赤木里香子（岡山大学）

事前のメール回覧により全員監査をおこなった。

前年度広島大学から岡山大学への会計関係資料の送付費用について21年度会計に計上されておらず、修正したものを後日送付しメール審議することとなった。

（6月20日付メール審議により承認された。）

## ■協議事項

## 1. 教大協研究会等補助金申請についての申し合わせへの記載（島根大学）

昨年度研究会補助金申請については総会当番校の判断に一任する案が提示され、承認された。今後の補助金申請に関し、Web会議システムの経費や担当校の開催状況を鑑み、申し合わせ記載を今年度検討することとなっていた。

## &lt;原案&gt;

申し合わせに以下のように記載

教大協中国地区会の研究集会補助金申請について

<\* 2021年6月5日 教大協中国地区会総会にて承認>

（1）教大協中国地区会の研究集会補助金申請については総会当番校の判断に

一任する。

原案が承認され、申し合わせの様式にあわせ、申し合わせ項目の2として記載することとなった。

## 2. 地区会会計についての意見交換（山口大学）

毎年、会計資料一式を次の当番大学に送る手間とお金が無駄ではないかという問題意識から今後の地区会計のあり方について意見交換を行った。

主に、会計担当大学の持ち方、会計引き継ぎの際の送金手数料の問題、会計引き継ぎ資料のデータ化などについて話し合われた。総会当番校が次回総会当番校の順番があたるまでの5年間を会計担当大学とする案やネットバンクの活用の可能性などの案が出されたが、今回の議論をたたき台として各大学で議論をしておき、次年度総会で議題として扱い今後の方針について結論を出していくことが確認された。

## ■その他

## 1. 情報交換

以下の内容について各大学の状況について情報交換を行った。

- ・現在の各大学のコロナ対応状況
- ・近年の入試状況と受験生の出身傾向

## 2. その他

出席者から、小学校への教科担任制の導入に関して図画工作が含まれないことなどについて、教大協全国美術部門として検討や声明の発表など、きちんとした動きをして欲しいという要望があった。

## &lt;次期定例総会当番大学挨拶&gt;

山口大学：吉田貴富（2022-2023年度理事）

作成者： 島根大学 藤田英樹

## 【九州地区会】

### 日時

令和4年7月1日（金）

14:30～17:00

（※予定より30分超過）

### 場所

オンライン開催

（主催：佐賀大学教育学部）

### 出席者 全23名

福岡教育大学：宮田洋平

千本木直行

松久公嗣

笹原浩仁

本田代志子

加藤隆之

上野真歩（新加入）

長崎大学：中川泰

大分大学：藤井康子

村上佑介

熊本大学：喜久山悟

梅田素博

松永拓己

宮崎大学：石川千佳子

大泉佳広

大野匠

樺島優子

鹿児島大学：桶田洋明

和田七洋

清水香

琉球大学：スプリー・ティ

トウス

佐賀大学：和田学

栗山裕至

### ■開会あいさつ

開会にあたり、佐賀大学の小野文慈教育学部長より挨拶があった。教員配置の少なさとそれに伴う質保証の危うさ、四国5大学の連携教職課程の動向等について話され、九州の意見をぜひ全国の場合へあげて頂きたいとのお言葉があった。

### ■協議事項

#### 1. 令和4年度日本教育大学協会全国美術部門協議会 / 第61回大学美術教育学会宮崎大会の協力体制について

九州地区全体として大会運営へ協力していくことを確認した。全国美術部門協議会「美術教育と今日的教育思潮—21世紀に求められる力量を若手美術教育者は如何に考えるか—（原案）」のパネラーの選出及び研究発表会の司会進行役（各大学から1名）の選出依頼があり、7月中旬をめどに進めていくこととした。

#### 2. 科研費の申請などへ向けた共同研究のための体制やネットワークづくりが、九州管内の大学間において可能かどうか

共同研究などによる科研費などの外部資金の獲得が、国立大学の評価において重視されている中、教大協の組織が活かせるかどうか

### ■報告事項

#### 1. 大学改革を踏まえた組織改編について（当日口頭）

国立大学の適正な規模、教員養成系大学・学部の高度化、他大学との連携・集約がうたわれている中での、各大学の現状について報告がなされた。

#### 2. 美術分野での教採対策の取り組みについて（書面）・教員採用試験受験率アップへの取

#### り組みについて（当日口頭）

美術分野の教員独自で行なっている中学美術、高校美術の教員採用試験に関する指導の具体的内容、受験率アップへ向けて実施されている取り組みについて、各大学から情報提供があった。

#### 3. コロナ感染対策下の授業運営について（当日口頭）

コロナ感染対策が求められ、リモート授業を余儀なくされている大学から、美術（特に実技）の授業を各大学ではどのように工夫して実施されているかの提案があり、各大学から報告があった。

#### 4. ICT活用に関する採用試験対策について（書面）

令和5年度（令和4年度実施）公立学校教員採用選考試験で、第二次選考試験において新たに「ICT等を活用し、数名のグループで協力して課題に取り組むグループワーク」を行う試験を実施予定との報告が某大学よりあり、各県教員採用選考試験でのICT活用に関する事項の有無や対策等について、各大学から報告があった。

#### 5. 美術科の志願者数と受験者数（初等及び中等・過去3年）について（書面）

近年美術科の志願者数の減少が著しいという某大学からの提案があり、各大学の状況報告がなされた。

#### 6. 美術科卒業生（現役）の教員採用試験合格者数（校種別・過去3年）について（書面）

近年、全般的には教員採用数は増加しているものの、中学校美術や高等学校美術の採用数は厳しい状況にあることから、九州各県の各大学の状況報告がなされた。

作成者： 佐賀大学 栗山裕至